

2022年3月期 決算の発表について

昭和産業株式会社(社長:新妻一彦)の2022年3月期連結決算は、売上高 287,635 百万円、経常利益 6,576 百万円となりました。2023年3月期の連結業績予想につきましては、現時点で合理的に算定することが困難であるため、未定としております。なお、業績予想の発表が可能となり次第、速やかに公表いたします。

【2022年3月期連結決算】

当連結会計年度の我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、個人消費はワクチン接種などの対策により一時持ち直しの動きがみられたものの、年明け以降のオミクロン株の感染者の急増により、まん延防止等重点措置の適用を受けた自粛ムードの再燃を背景に消費関連業種の景況感が下振れする等、年度を通し総じて厳しい状況となりました。

原料穀物は、世界的に旺盛な需要に加え、ウクライナ情勢の深刻化による供給懸念により、原料穀物相場は歴史的な高値で推移しております。また、油脂原料である菜種は天候不順による油分低下に伴い歩留が悪化しております。さらに、為替相場の円安ドル高進行による輸入コストの上昇やエネルギーコストの高騰なども重なり、極めて厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中、当社は創立90周年を迎える2025年度のありたい姿(長期ビジョン)「SHOWA Next Stage for 2025」の実現に向けた2nd Stage「中期経営計画 20-22」に取り組んでおります。長期ビジョンの「確立」のステージと位置づけ、5つの基本戦略においては、これまでの「①基盤事業の強化」に注力しつつも、軸足を「②事業領域の拡大」「③社会的課題解決への貢献」へと大きく移し、それらを支える「④プラットフォームの再構築」「⑤ステークホルダーエンゲージメントの強化」についても優先度を高めて各施策の推進に努めております。

当連結会計年度の経営成績は、連結売上高が287,635百万円と前年同期に比べ31,637百万円(12.4%)の増収となりました。営業利益は5,564百万円と前年同期に比べ2,029百万円(26.7%)の減益、経常利益は6,576百万円と前年同期に比べ2,637百万円(28.6%)の減益、親会社株主に帰属する当期純利益は4,006百万円と前年同期に比べ6,108百万円(60.4%)の減益となりました。

【2023年3月期連結業績予想】

国内の経済情勢につきましては、新型コロナウイルス感染症の脅威は依然として続いており、今後も国内の感染症が収束するにはまだ時間を要するなど、不確実性が高い状況であると考えております。

当社グループは、穀物の一次加工を主な事業としており、小麦、大豆、菜種、とうもろこしなどの原料穀物相場、為替相場、エネルギー価格の影響を受けます。昨年来、旺盛な需要を背景に原料穀物相場は高値で推移しておりますが、ウクライナ情勢の深刻化に伴い更なる相場の上昇と高値水準での長期化が懸念されることに加え、為替相場も急激な円安ドル高が進行し、エネルギー価格の上昇も見込まれるなど、当社グループのビジネスを取り巻く環境は極めて不透明となっております。

このような不確実性の高い経済状況の中、当社グループとしては引き続きコスト上昇に見合った販売価格の改定を最優先に取り組むとともに、拡販とコストダウンを進めてまいります。現時点では今後の業績を合理的に算定することは困難となっており、2023年3月期の連結業績予想につきましては、配当予想とともに未定とさせていただきます。

なお、業績予想の発表が可能となり次第、速やかに公表いたします。

以 上

<本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先>

昭和産業株式会社 経営企画部 コーポレート・コミュニケーション室 担当：赤松

TEL:03-3257-2042